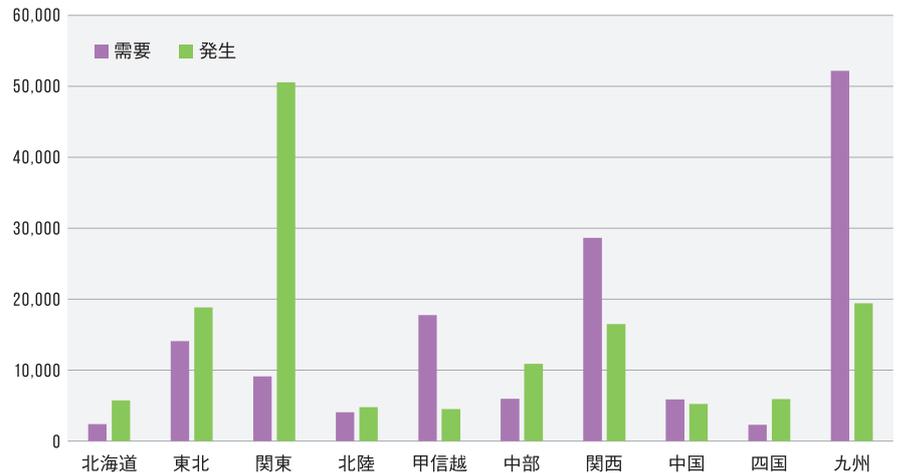


### 空きびんの発生量が多いのは関東、空きびんの需要量が多いのは九州

地域別に1.8ℓびんの発生量と需要量を推計した結果、1.8ℓびんの空きびん需要量が多すぎる地域は九州(約5230万本)、次いで関西(約2870万本)、甲信越(約1780万本)、東北(約1410万本)という順になりました。大手酒造メーカーが数多く立地する関西より九州の方が空きびん需要量が多く、地域別の構造が変わってきています。発生量が多すぎるのは関東(約5070万本)、次いで九州(約1950万本)、東北(約1890万本)、関西(約1650万本)という順になりました。人口の多い首都圏を抱える関東地方で発生量が多くなっています。※発生量は中身が消費されて空きびんとして発生する量で、ごみとして処理されたりカレットになってしまう量も含む。

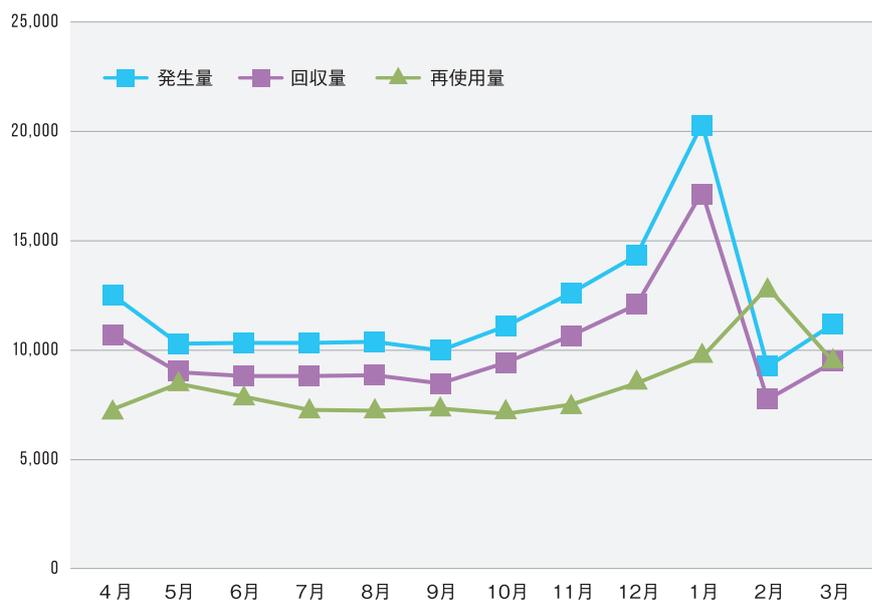


出典: 日本酒造組合中央会「平成27年度1.8ℓびんの再使用率向上策の調査研究概要」

### 空きびんの発生量と回収量は1月がピーク、再使用量は2月がピーク

中身製品の需要量が多すぎるのは宴会シーズンの12月～1月です。そのため空きびんの発生量、回収量ともに1月がピークになっています。回収びんが使わ

れるのは日本酒の仕込み期間の秋から冬にかけてで、2月がピークになっています。



## 回収びんの流れ

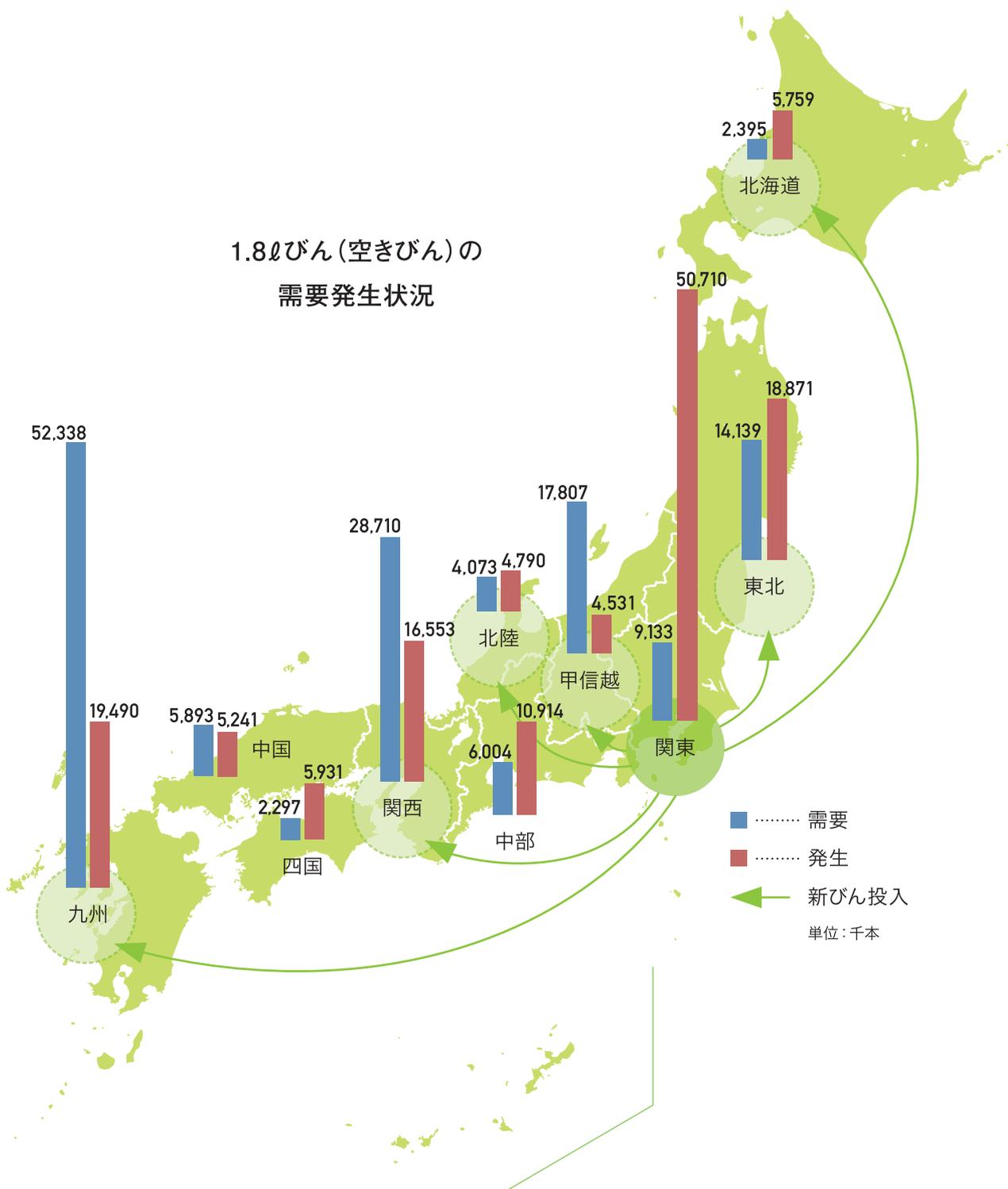
年間を通して空きびんの回収量が需要量を上回っているのは関東、不足しているのは九州です。関東地方は年間を通して回収量が需要量を上回り、九州地方は大きく下回っています。

推計結果をイメージとして図示してみました。発生地である関東地方からは、需要地の東北、甲信越、関西へ流れ、関西や四国、中国から九州に流れています。関

西、九州での不足分は新びんが使用されています。

日本酒、本格焼酎の産地である関西、九州から新びん入りの製品が首都圏をはじめ全国に販売され、回収された空きびんは地元の酒蔵で使われるという循環が基本で、回収びんの過不足は、各地のびん商が調整することで1.8びんの循環は成り立っています。

1.8ℓびん(空きびん)の  
需要発生状況



出典: 日本酒造組合中央会「平成27年度1.8ℓびんの再利用率向上策の調査研究概要」

## 地域ごとの特色

### 東北

秋田県(日本酒生産量全国4位)、福島県(同7位)など、日本酒生産量が多い地域であるため、需要・発生規模も第4位である。震災からの復興が進むにつれて日本酒の製造販売が伸びており、1.8ℓびんも需要が伸びている。そのため時期によっては地域内で回収びんをまかなうことができず、不足分を関東から補っている。

### 甲信越

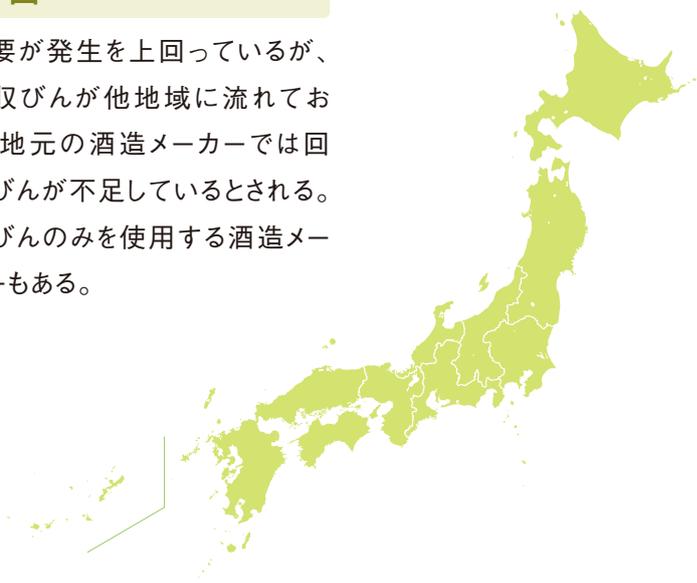
新潟県は兵庫県、京都府に次いで日本酒の生産量が多い県であるため、需要が発生を大きく上回っている。したがって回収びんも慢性的に不足しており、関東からの空きびんでカバーしている。

### 北陸

発生量(約480万本)のほうが需要量(約400万本)よりやや多いが、回収びんはやや不足気味である。

### 中国

需要が発生を上回っているが、回収びんが他地域に流れており、地元の酒造メーカーでは回収びんが不足しているとされる。新びんのみを使用する酒造メーカーもある。



### 関西

灘(兵庫県)、伏見(京都府)という日本酒の二大産地があり、かつては1.8ℓびんの需要がもっとも多かった。発生量より需要量の方が多く、回収びんは慢性的に不足している。回収されない空きびんが多く存在すると推察される。もともと大手メーカーは新びんで全国に製品を供給し、各地域で発生した空きびんが回収され地方の蔵で使うという構造だった。そのため大手では不足分を補うために新びんを投入している。

### 北海道

酒造メーカーの立地が少なく、道外から流入した1.8ℓびんを清酒だけでは使い切れないために、醤油や食品びんなど多用途に使われていた。現在では清酒以外の用途は少なくなったため、びんは余剰である。余剰分は道外に移出されているが、輸送費がかかることが問題である。

### 関東

首都圏を含み、酒類の消費量が圧倒的に多いため、5千万本の1.8ℓびんが発生していると推計される。発生量に対して相対的に需要量は少ないが、埼玉県は日本酒の生産量が全国第5位である。空きびんの供給地となっており、回収びんは主に東北、関西、甲信越に供給され、一部は九州まで送られている。一方で生産量が多い地方都市では回収びんが不足しているところもある。段ボールで出荷する酒造メーカーが増えたことから発生量に対してびんを回収するためのP箱の不足が懸念されている。

### 四国

需要は少なく発生量の方が多い。回収びんが他地域に流れており、地元の酒造メーカーでは回収びんを確保しにくいとされる。

### 東海

愛知県は日本酒生産量全国第6位であるが、ヒアリング調査によると、回収びんの需要は低減しており、需給の変動が激しいとされる。地域によっては回収びんが不足している。

### 九州

本格焼酎容器としての1.8ℓびんの需要が大きく、全国でもっとも1.8ℓびんを使っている地域である。製品の多くは首都圏や関西などに移出されるため、空きびんそのものの発生量は需要量に比べて少ない。そのため回収びんは慢性的に不足している。また新びんで段ボール出荷という形態が増え、リユースされにくい要因となっている。